

公人私入

▲江上頭山崎伯(京部)南滿洲の目
里別府日名子監査官に本月末迄
出張
▲大森吉五郎氏(長崎縣内務部長)の
十八日午後一泊の選定を以て臨
岡へ出張
▲山田良之助少将(新任憲兵司令
官)十八日午後五時五十五分門
司着同七時十分下園にて赴任
要務司令副監監監後閣の爲め二十
日午後五時十五分米崎の警
▲上野陸軍中將(陸軍少將)飯田
長崎警分隊及び委員司令部軍
馬の検査を了へ十九日午前八時
▲山田新任長崎監査官長 十九日
午後零時卅一分米崎警分隊の警
▲小林少将(佐賀縣)新選任の警
務副官の選定が知事長官の條
下に向け十八日選定したるが米
▲廿八日警任の警
▲河野大佐氏(福岡歩兵聯隊
長)現地警務副官の爲め二十一日
午後五時五十分大森山地方へ出張
▲小林作五郎氏(福岡警務組組
長)上京中の所十八日福岡警務
所會頭)全國商會聯合會出席の
爲め二十一日上京
▲高橋徳氏(佐賀縣警務)建設
中止情況調査の爲め世保長崎へ
出張
▲山本精彌氏(宮崎警務)長善學博
士(十七日米崎警務分隊投宿)
▲加藤彌一郎氏(通信局警務)同上

公人私入

▲三浦精太郎氏(熊本高等工業學
校長)は文部省に事務打合せ
の爲め十日間の選定を以て十八
日より上京
▲末永徳藏氏(佐賀縣産業技術)
福岡縣に出向
▲福間徳徳氏(佐賀縣商會)三選
長崎造船所に於ける労働狀況観
察の爲米崎池田山縣旅館に泊宿中

鳴りを辭めた三菱造船所 遂に職工の動搖初まる

昨日午後迄に約一千名の退職
二十五六年も勤続した職工は手
當や養老金一萬圓を携へて歸る

長崎、大井、豊前を襲った短
崎三菱造船所では、長崎造船所の他も
見せず、同所では、約八百名に及ぶ
前迄には、千名に達する見込みであ
つた此の内には、二十五六年間勤続
して来た職工も加つてあるが、多
くは、出稼者、他所からの者が、多
く、退職金、工中、二十五六年勤続者
退職手當、三千圓に及び、此に養老
金、其の他の拂込金を合算するに
萬圓以上に達し、又新卒者でも百圓

内外の手當を受けてゐる。珍らしい
のは、鹿児島大島等から出稼して
る職工が、一國になつて、職工を
で長崎造船所の者は、約二千名に
さ、ない模様である。同所では、十
日、長崎造船所大幹部に、事務所
受け、今後、長崎造船所の職工の
支拂をなす筈であるが、四國九州地
方、長崎の爲め、労働者、同所から
派、遣されてゐた、同所、八
條に、來り、更に、不長崎、來た、ミ
の、風、がある、ので、一般に、整、成、さ、れ